

冬の畦ヶ丸登山

西丹沢ビジターセンター脇の吊橋から入山し、西沢沿いを登ります。沢の景色は、夏と違って落葉により日の光がよく入るため、白い花こう岩と青い水がより鮮やかな、冬ならではの光景となります。また、途中下棚・本棚の滝に寄り道をすれば、厳寒期には滝全体が凍り付く氷瀑が見られます。

西沢を離れたら、尾根を一気に上がり善六(ぜんろく)ノタワへと向かいます。登山道は花こう岩の表面が風化して白い砂(真砂)になっており少し滑りやすいですが、ザクザクと音が立ち気持ちよく登っていただけます。善六ノタワは、数メートルですが急峻な尾根状になっていて、両側に白い真砂の広がる様子がとても印象的です。ここを過ぎると、あとは一気に山頂に向かって稜線を登ります。11月には紅葉も終わるため、稜線の見通しがきくようになります。

畦ヶ丸の山頂(標高1,292m)はブナや他の樹木に囲まれており、春から秋にかけては生い茂る葉で眺望はありませんが、落葉する晩秋から冬の季節の晴れた日には、木々の間から雪をかぶった富士山が

西丹沢ビジターセンター

目の前に見え、遠く南アルプスや周囲の加入道山や大室山も望めます。

夏の時期とはまったく印象が異なる「冬の畦ヶ丸」。下記の冬山登山の注意点を守り、挑戦してみませんか。往復6時間30分が目安の登山コースです。(執筆:澤田)



加入道山(畦ヶ丸山頂稜線上から撮影)

【冬山登山の注意点】

- ・日没が早いので、早めの出発・下山を行い、15時には下山完了を目指す。
- ・山頂から下山を始める前には地図で登山道を確認する。(冬山では落ち葉や積雪で登山道が見えにくくなっており、下山する尾根を取り違えて道に迷うリスクが高いため。)
- ・滑り止め、ヘッドライト、予備の防寒着を必ず携帯する。



畦ヶ丸山頂稜線



凍り付く本棚

【新型コロナウイルス感染症対策に関するご注意とお願い】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各施設をご利用いただく際は、手指の消毒の徹底・マスクの着用をお願いするとともに、展示室の人数制限をさせていただく場合があります。

自然公園へでかけよう



環境省箱根ビジターセンター
Hakone Visitor Center
〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根 164
Tel 0460-84-9981
<http://hakonevc.sunnyday.jp/>

県立秦野ビジターセンター
Hadano Visitor Center
〒259-1304 秦野市堀山下 1513
Tel 0463-87-9300
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawavc/>

県立西丹沢ビジターセンター
(旧西丹沢自然教室)
Nishi-Tanzawa Visitor Center
〒258-0201 足柄上郡山北町中川 867-2-9
Tel 0465-78-3940
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawavc/>

開館日、開館時間、イベント予定等は各ビジターセンターまでお問合せください。



箱根ビジターセンター、秦野ビジターセンター、西丹沢ビジターセンターのFacebookページ公開中！ 最新の情報をご覧ください。

紅葉？

本格的な紅葉シーズンを迎えました。様々な色模様で山が美しく着飾っています。これらの色に混ざって目立たなくなりましたが、この中にはナラ枯れした木も隠れているのです。春夏の時期には青葉を背景に、まるで赤茶けて鈍く紅葉したように見え、箱根ビジターセンターの来館者や電話の問い合わせが数多く寄せられました。

このナラ枯れという現象は、体長5ミリほどのカシノナガキクイムシという昆虫が媒介するナラ菌の作用で、ドングリやシイの実がなる、ナラ類やカシ・シイ類の木を枯らしてしまうものです。箱根では、3年ほど前に山裾の湯本地域から始まり、今では箱根外輪山中腹の広範囲にまで広がってしまいました。我が国では古来、各地で繰り返し起こってきました。発生から5年ほどを境に終息に向かうとする説もありますが、確固たる根拠はないようです。

美観への影響もさることながら、倒木被害の危険やさらなる感染を防ぐため、国、県、町でも伐倒燻蒸（切り倒して薬剤で殺虫・殺菌する）や薬剤による予防処理、民間への処理費用補助金制度などの

シカから見る丹沢10年今むかし

企画展「スタッフが見た 丹沢10年今むかし」を12月6日まで開催しています。

その中に、約10年間の情報収集で職員が「出会った哺乳類ランキング」があります。堂々の1位は・・・ニホンジカ!2位のニホンリスに大差をつけて49回の出会いです。まさにシカは丹沢山地を代表する哺乳類と言えます。しかし、もともとシカは平野部に暮らす動物。我々人間の開拓により、神奈川県は丹沢山地に追いやられ、生息密度が高まってきました。草食動物であるシカの密度が高まるにつれ、丹沢山地の下草は減少し、雨で土壌が流れたり、他の生き物の生息環境が悪化したりと様々な問題が生じました。

そこで2012年に発足されたのが神奈川県ワイルドライフレンジャーです。一般に捕獲活動が困難な標高の高い稜線を中心に、少人数によるシカ捕獲を実施しています。表を見ると、ちょうど2012年をピークにシカと出会った回数が減っており、ワイルドライフレンジャーが活動を開始した年と符合します。シカ

表 秦野ビジターセンター職員が約10年間の山岳情報収集でニホンジカに出会った回数

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	合計
4回	6回	16回	8回	5回	2回	2回	1回	3回	2回	49回

箱根ビジターセンター

対応にあたっています。

箱根ビジターセンターでは、この問題について多くの方々に関心を持っていただくために、今後時期をとらえてナラ枯れをテーマとする特別展を開催する予定です。(執筆：信濃)



シラカシの枯木(出山の鉄橋付近)



明星ヶ岳中腹のナラ枯れ

秦野ビジターセンター

との出会いの減少は淋しくもありますが、これはシカの生息密度が下がっているということにもつながります。そして、下草が復活したところも…。まさにワイルドライフレンジャーの活動の成果と言えます。

12月12日からは、自然環境保全センター巡回企画展「ニホンジカのこと、もっと知ってください」が秦野ビジターセンターにて始まります。ぜひ、ニホンジカのことをもっと知ってください!(執筆：長澤)



トゲのあるメギの葉をはむニホンジカ(2012年5月24日撮影)